2020年６月４日

各　位

会社名　株式会社大泉製作所
住　所　埼玉県狭山市新狭山一丁目 11 番４号
代表者　代表取締役社長　後藤　英恒
（コード番号：6618　東証マザーズ）
問合せ先　取締役管理本部長　鶴本　貴士
（TEL. 04-2953-9212）

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時　2020年６月４日（木）13：00～14：00

開催方法　SBI証券Webサイト内オンライン形式による開催

説明会資料　2020年３月期　決算説明会資料

【添付資料】

説明会において使用した資料

以　上

2020年6月4日

2020年3月期決算説明会資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

サマリー

OHIZUMI

1．19年度業績

- 中国市場低迷の影響等により、前期比減収減益
- 電動化領域の生産準備は完了し、20年度以降の供給本格化へ対応
- 5G普及に伴い、光通信用エレメントの売上が拡大
- 期末配当金は、1株当たり8円を予定

2．20年度業績見通しとCOVID-19の影響

- COVID-19収束後の成長を見据えた経営体制へ
- 20年度業績予想は事業環境が不透明なため公表見送り、配当方針は未定
- 追加借入及び資金調達枠増加により手元流動性を向上
- 中期事業計画方針はこれまで通り、電動化・5Gを中心に成果も出つつある

1．19年度業績

19年度業績サマリー

OHIZUMI

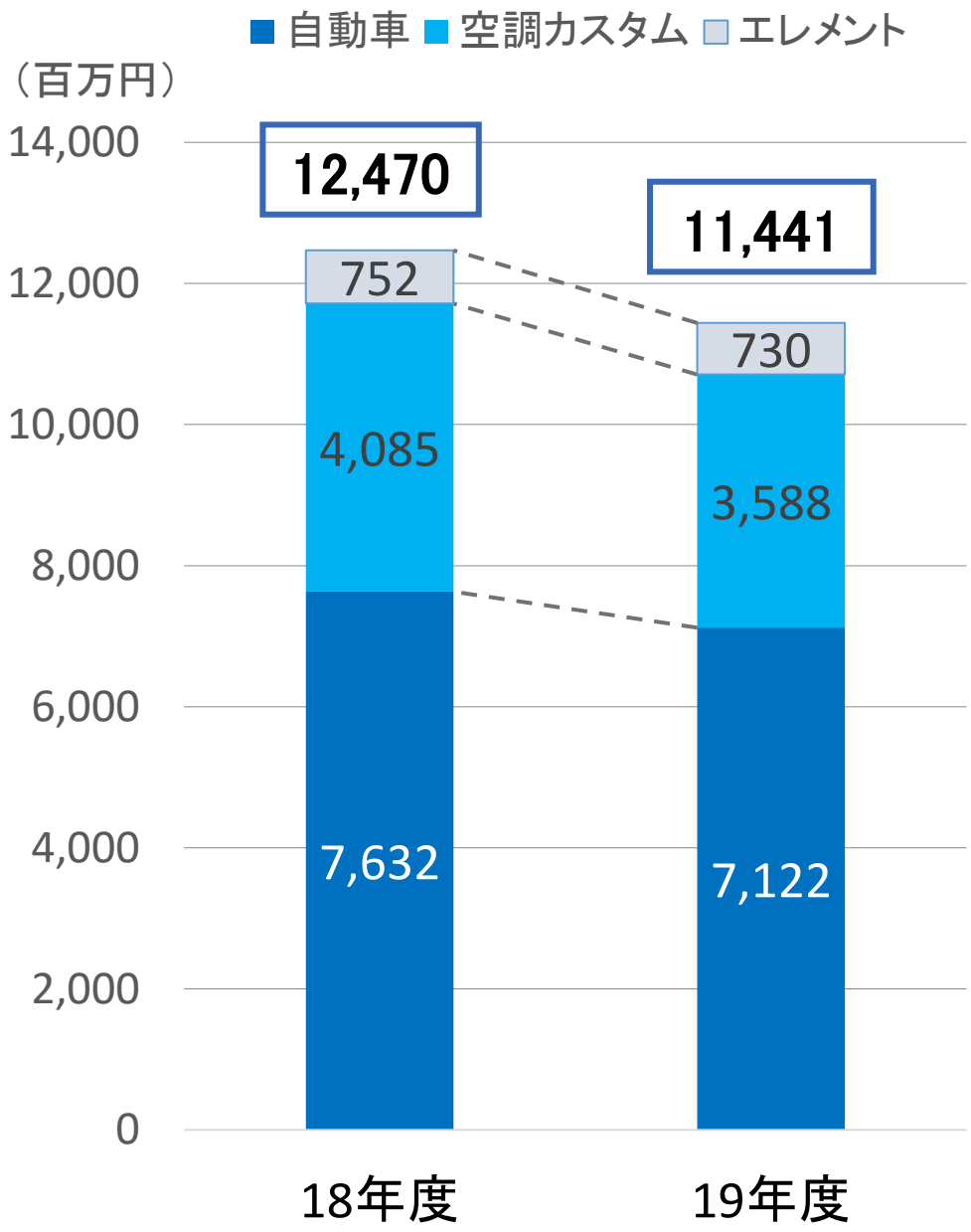
単位：百万円

	18年度		19年度					
	実績	%	予想	%	実績	%	前期比	予想比
売上高	12,470	—	11,958	—	11,441	—	△8.3%	△4.3%
営業利益	735	5.9%	535	4.5%	465	4.1%	△36.7%	△12.9%
経常利益	752	6.0%	478	4.0%	393	3.4%	△47.6%	△17.6%
当期純利益	560	4.5%	354	3.0%	220	1.9%	△60.6%	△37.6%

※19年度予想は2019年11月発表の数値

19年度事業別売上高

OHIZUMI



事業	前年同期比（百万円）	増減率	
全体	△1,029	△8.3%	各事業とも中国市場低迷(市場要因)の影響を受けて減少
エレメント	△22	△3.0%	●自動車、家電用既存品は市場要因等により減 ●光通信用は好調（約+150%）
空調カスタム	△496	△12.1%	●ASEAN向け空調が好調 ●米中貿易摩擦及びCOVID-19影響により中国向け空調が減
自動車	△510	△6.7%	●既存品は市場要因を背景とした各自動車メーカーの生産調整等により減 ●電動化領域は市場要因及び補助金低減等の影響により、微増にとどまった

19年度エリア別売上高

OHIZUMI

- 日本は中国市場低迷を背景とした国内自動車の生産調整等によって減少
- 中国販売は、市場要因及びCOVID-19影響（△130百万円）により減少
- ASEAN向けは旺盛な需要やVE品の拡販により空調用が増加

（単位：百万円）

エリア	売上高	エリア別構成比	前期比	増減率
日本	6,792	59.4%	△ 526	△ 7.2%
中国	1,595	13.9%	△ 481	△ 23.2%
ASEAN	1,664	14.5%	＋ 89	＋ 5.7%
その他	1,390	12.2%	△ 111	△ 7.4%
合計	11,441	100.0%	△ 1,029	△ 8.3%

19年度四半期業績推移

OHIZUMI

- 第1四半期は電動化領域の立ち上げ等により堅調な業績
- 第2四半期より中国市場悪化の影響を受け減収、収益性が悪化
- 第4四半期には決算処理として繰延税金資産取り崩し等を含む

（単位：百万円）

	19年度							
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		構成比		構成比		構成比		構成比
売上高	3,060	100.0%	2,813	100.0%	2,803	100.0%	2,763	100.0%
売上総利益	660	21.6%	567	20.2%	540	19.3%	521	18.9%
営業利益	208	6.8%	112	4.0%	55	2.0%	89	3.2%
営業外収支	△32	−1.0%	△10	−0.4%	△9	−0.3%	△19	−0.7%
うち、支払利息	△16	−0.5%	△16	−0.6%	△19	−0.7%	△15	−0.6%
うち、為替差損益	△2	−0.1%	18	0.7%	△13	−0.5%	△4	−0.2%
経常利益	176	5.8%	101	3.6%	45	1.6%	70	2.5%
法人税等	26	0.9%	41	1.5%	19	0.7%	85	3.1%
当期純利益	150	4.9%	59	2.1%	26	0.9%	△15	−0.5%

19年度貸借対照表

OHIZUMI

- COVID-19影響に備え流動性確保を目的とした借入600百万円を実施（現金預金）
- 過年度より促進している成長投資を継続（有形固定資産）

◇資産の部

（単位：百万円）

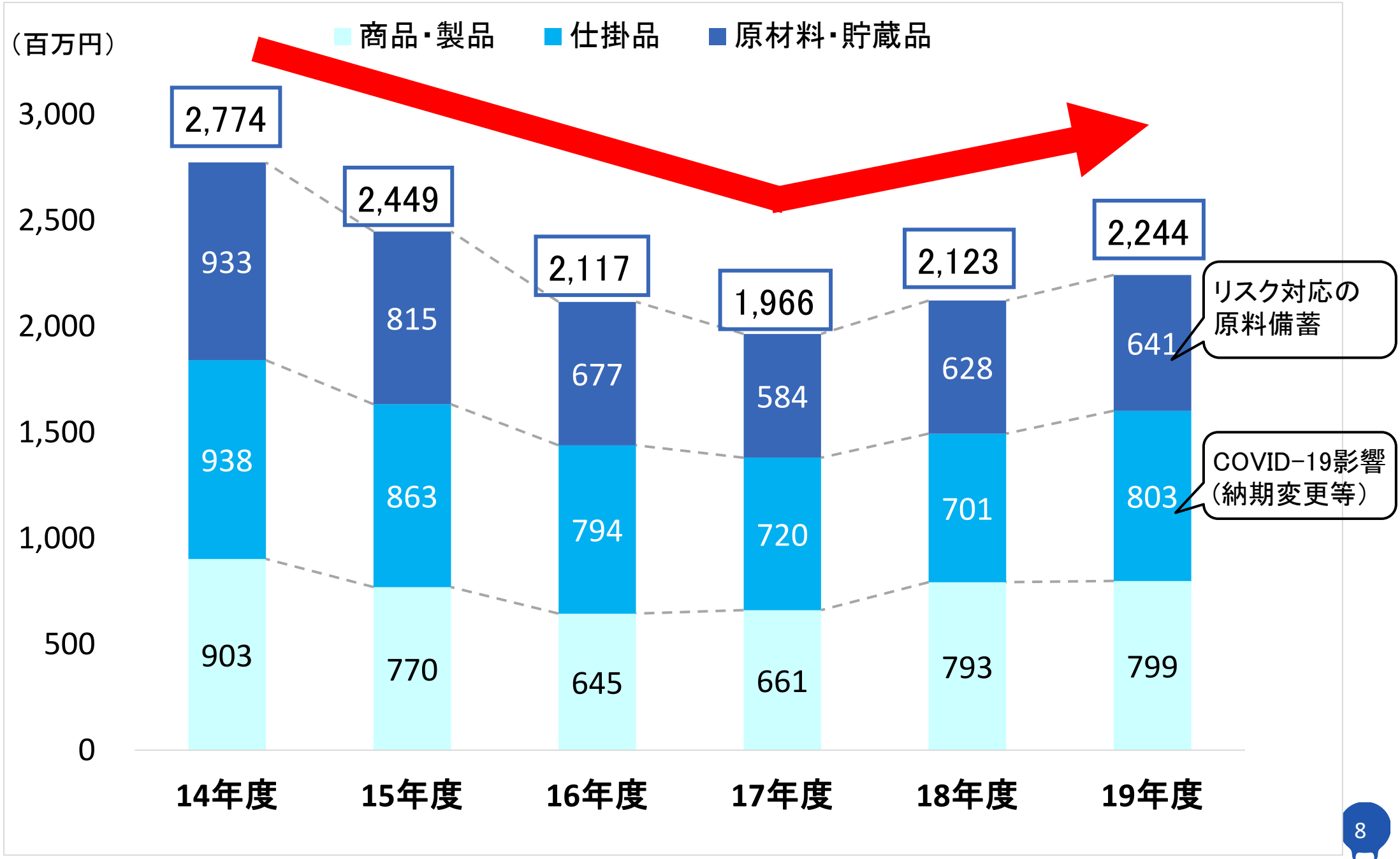
	19年3月	20年3月	増減
流動資産	6,192	6,510	318
現金預金	1,448	2,054	605
売上債権	2,493	2,070	△423
棚卸資産	2,123	2,244	121
その他	127	141	14
固定資産	2,735	2,931	196
有形固定資産	2,393	2,628	234
無形固定資産	60	125	64
投資その他	280	178	△102
資産合計	8,928	9,442	514

◇負債・純資産の部

	19年3月	20年3月	増減
流動負債	3,169	3,850	681
仕入債務	1,244	1,156	△87
有利子負債	942	2,063	1,120
その他	981	630	△351
固定負債	3,558	3,413	△144
有利子負債	2,737	2,650	△86
その他	821	763	△58
負債合計	6,727	7,264	536
純資産合計	2,200	2,178	△21
株主資本	1,957	2,122	164
その他	242	56	△186
負債・純資産合計	8,928	9,442	514

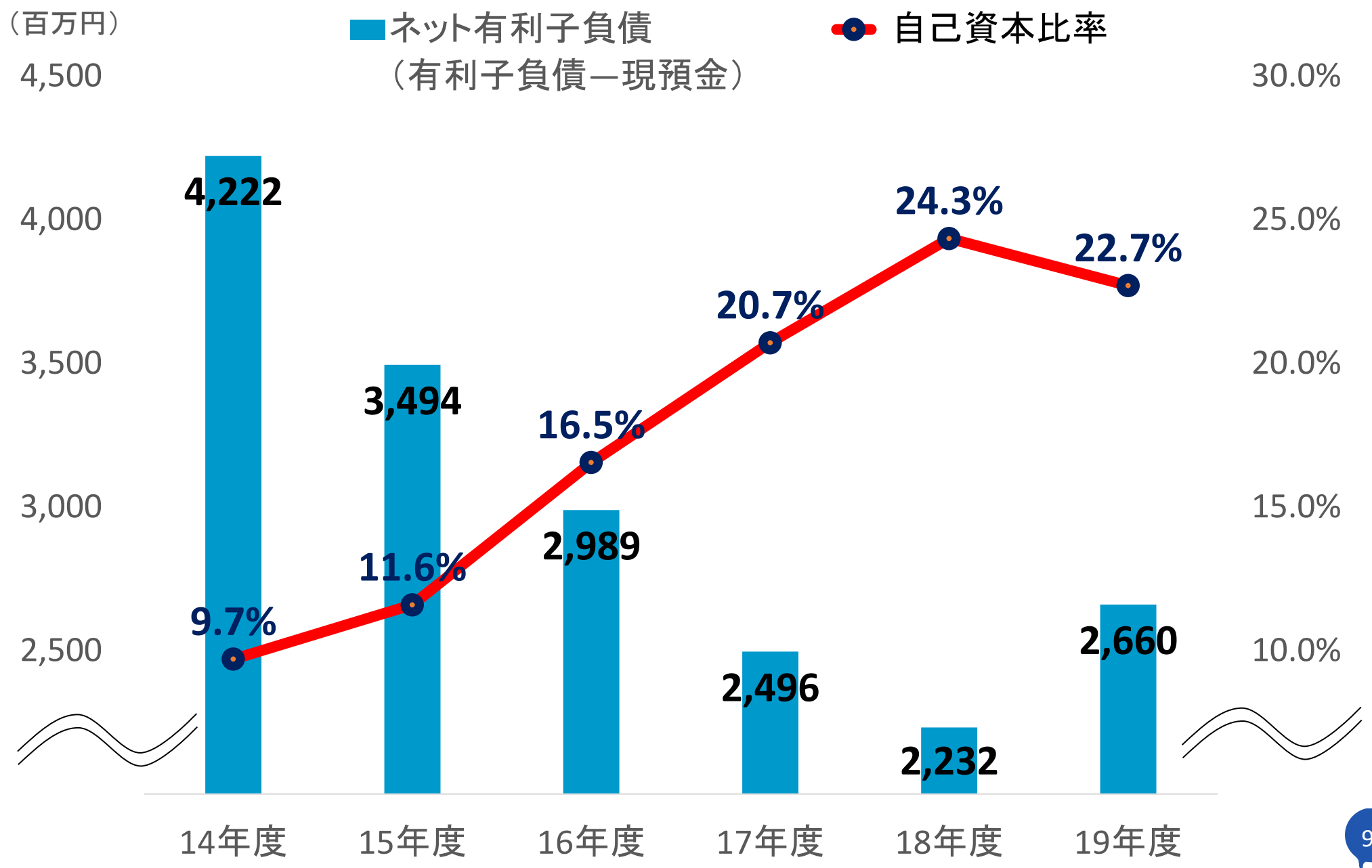
在庫高はCOVID-19対応等により増加

OHIZUMI



成長投資の促進により借入金は増加

OHIZUMI



二次電池用ラインを中心に成長への先行投資を継続

OHIZUMI

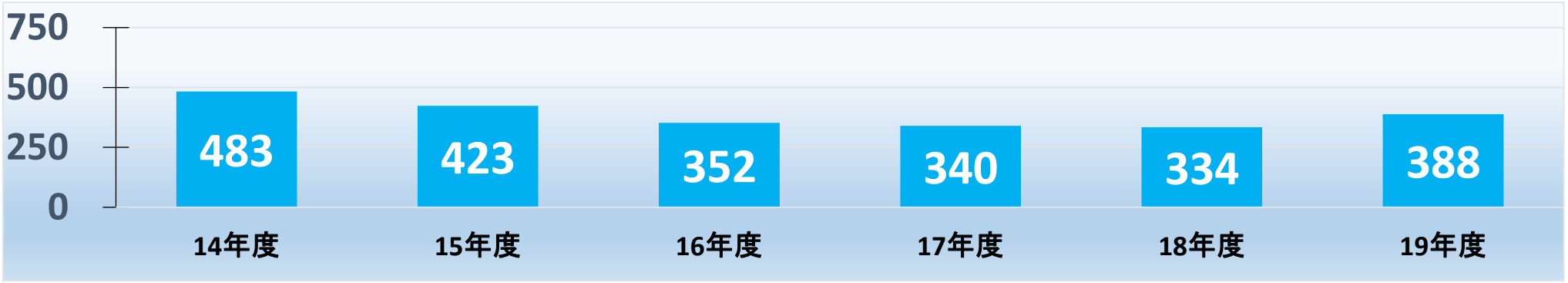
【設備投資】

（単位：百万円）

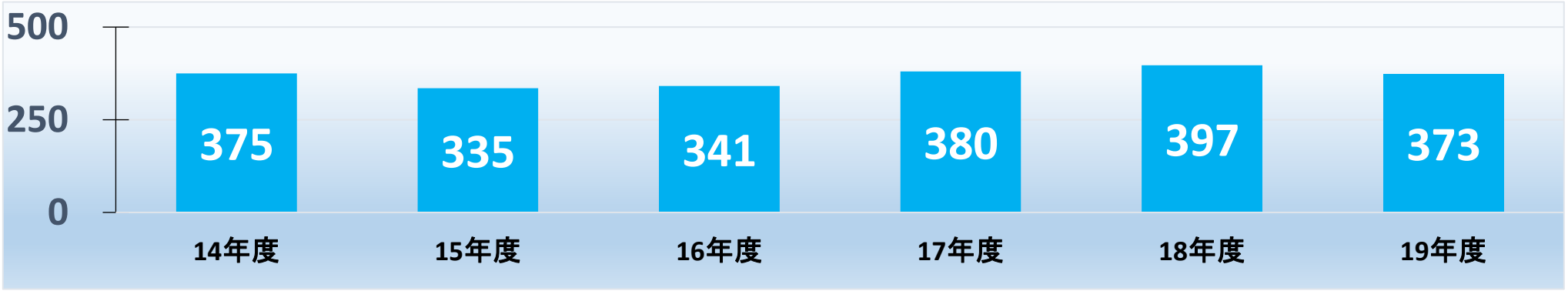


※19年度：IFRS適用による影響額は含まず

【減価償却費】



【技術研究費】



2. 20年度 業績見通しと COVID-19の影響

COVID-19収束後を見据えた経営体制へ

OHIZUMI

- 20年5月、代表取締役の異動(社長交代)を内定

氏名	新役職	旧役職及び管掌	
後藤　英恒	代表取締役会長	代表取締役社長	―
佐分　淑樹	代表取締役社長	取締役副社長	技術・品質保証本部統括、 自動車部品事業本部統括、エレメント・空調・カスタム本部統括

※2020年6月29日付開催予定の株主総会及びその後の取締役会において正式決定する予定

- 新代表者の略歴

氏名 (生年月日)	略歴	
佐分　淑樹 (1958年1月19日)	1980年4月 2003年1月 2013年1月 2017年2月	㈱デンソー入社 同社セラミック技術部室長 同社セラミック技術部担当部長 当社取締役副社長

- 新経営体制でCOVID-19収束後の成長を推進する
  - 後藤会長:ガバナンスを通じた企業価値の向上を推進
  - 佐分社長:技術を核とした事業の成長を推進

20年度見通し

OHIZUMI

- **業績予想**
  - 今後の事業環境見通しが不透明であり、現時点では業績予想の算定が困難なため、公表を見送る
  - 配当方針は未定

- **事業別概況**

事業分野	事業環境	当社を取り巻く環境	
		上期概況	1Q見込（前年比）
自動車	● 20年2月には中国の販売台数が大幅に減少（前年比△70%＊） ● その後、北米、日本へ影響拡大 ● 4月には中国の販売台数が回復（同+4.5%＊） ● 第2四半期以降、国内および海外市場の回復を想定	● 国内外の自動車減産による売上減少の見込み ● 事業環境の回復により、第2四半期以降の売上回復を見込む	60～65%
空調・カスタム	● 中国市場は回復基調 ● ASEANの一部地域でロックダウン継続、市場回復は不透明	● 中国市場での売上は回復見込み ● ASEAN、欧州向け空調が減少見込み ● カスタムは、工作機械向け顧客内シェアアップ等により増加の見込み	（空調） 70～75% （カスタム） 115～120%
エレメント	● 中国の経済回復に向けた5Gインフラ投資が本格化	● 光通信用エレメントの需要が大幅に増加 ● 既存顧客内での当社シェアアップ、新規顧客開拓による売上増を見込む	135～140%

＊出所：MARKLINES統計データ

COVID-19による影響と対応状況

OHIZUMI

- **影響と対策**
  - 中国工場は2月に一時停止するも、2月下旬より通常稼働、その他工場は稼働影響なし
  - 2月前半の中国工場の稼働困難な時期は、グループ工場間の機動力を発揮し、生産体制の補完及び資材在庫共有により、サプライチェーンの保全に注力
  - 3月以降の世界的な感染拡大により、自動車事業を中心に国内外での需要が減少。それに伴い、4月下旬以降、自動車向け国内の一部工場とタイ工場で稼働を調整
  - 2月初旬にCOVID-19対策本部を立ち上げ、速やかな情報共有と迅速な対策を実行

- **業務運営**
  - 従業員の健康と安全確保を最優先
  - 各国政府・地方自治体の指導に沿った感染防止策を徹底した上で稼働
  - 本社・営業所は在宅勤務を推進

- **社会への貢献**
  - 人工呼吸器向けエレメントの需要大幅増に対する緊急増産対応
  - 青森県内の医療機関へのマスク寄付

資金リスクに備えて手元流動性を向上

OHIZUMI

- 20年3月に、既存の借入枠で600百万円を借入れ、手元流動性を向上
- 5月には、主力銀行2行で1,000百万円の新規借入枠を設定
- 借入枠を含めた資金余力は約35億円（平常時平均月商3.6か月に相当）
- 取引金融機関からの支援体制は強固であり、更なる財務リスクへも備え

流動預金残高と借入余力（連結）

単位：百万円

	2020/2月	2020/3月		2020/5月（見込）	
	残高	借入実施	残高	借入枠追加	残高
手元流動預金残　（A）	1,369	+600	1,979		1,782
借入枠（未使用）　（B）	1,275		675	+1,000	1,675
資金余力　（A+B）	2,644		2,654		3,457

20年度も事業計画の基本方針は変わらず

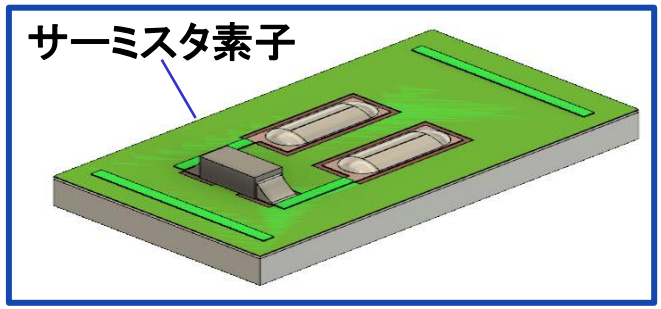
OHIZUMI

経営戦略		進捗状況
事業三本柱	◆ 自動車	・二次電池用の新規ライン設置完了、量産対応可 ・21年度以降の電動化領域新規案件も複数成約
	◆ 空調カスタム	・VE品提案によるシェアアップに注力 ・コスト競争力向上により東南アジアでの新規案件獲得
	◆ エレメント	・5G向けインフラ投資による市場拡大を背景に、既存顧客のシェアアップ及び新規顧客開拓により光通信用売上は大幅増の見込み
生産・技術力強化	◆ 供給体制の確立 ◆ ニーズを捉えた技術開発	・素子供給能力増強のための十和田新工場の稼働 ・二次電池用のコア仕様共通化による製品競争力向上
経営管理体制確立	◆ 管理の仕組改善 ◆ 人材力強化 ◆ システム導入	・生販管理体制の更なる強化 ・教育の一層の充実を計画 ・ERPシステムの稼働開始

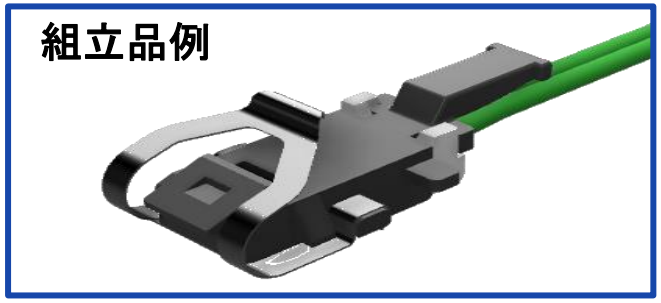
二次電池用は新規ラインを設置、本格供給を開始

OHIZUMI

共通仕様のコア部分は
共通ラインで生産



カスタマイズ部分は顧客向け
専用ラインで組立



共通ライン



A社



B社



C社



D社



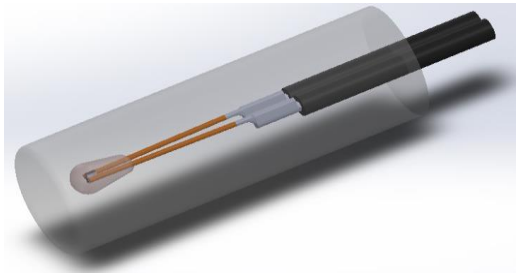
空調はVE品の提案、採用でシェアアップ

OHIZUMI

配管温度センサ

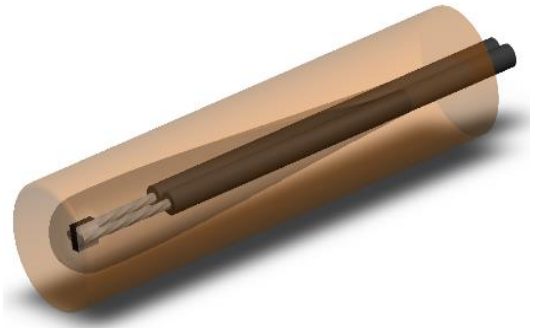


従来製品



・別リード線を介して接続
・ガラスコート
・太い電線が必要

VE品（HIC150）



・リード線に直接接続
・細い電線への変更

部品点数削減等で原価を低減、コスト競争力が向上

- グローバルで提案、採用・展開によりシェアアップ

5G向けインフラ投資によりサーミスタ需要も増加

OHIZUMI

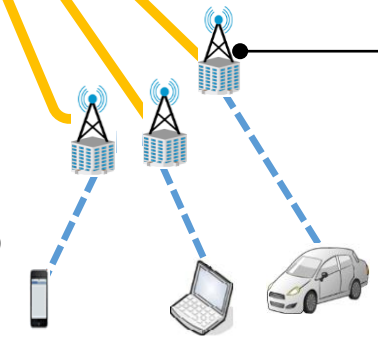
「メトロコアネットワーク」
- 大陸や国、大都市間を繋ぐ通信網



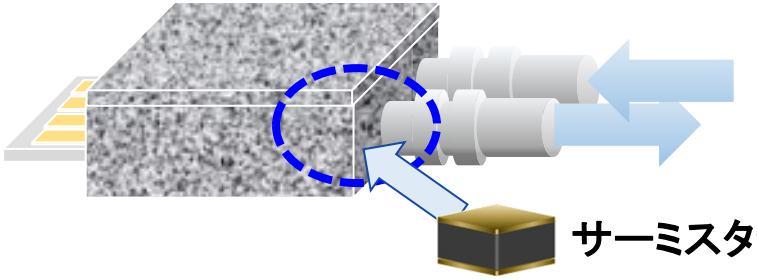
「モバイルバックホール」
- 都市内を繋ぐ通信網
- データセンター



「モバイルフロントホール」
- 末端端末に近い通信網
- 「基地局」で各端末と繋がる



光トランシーバー（TRX)を設置

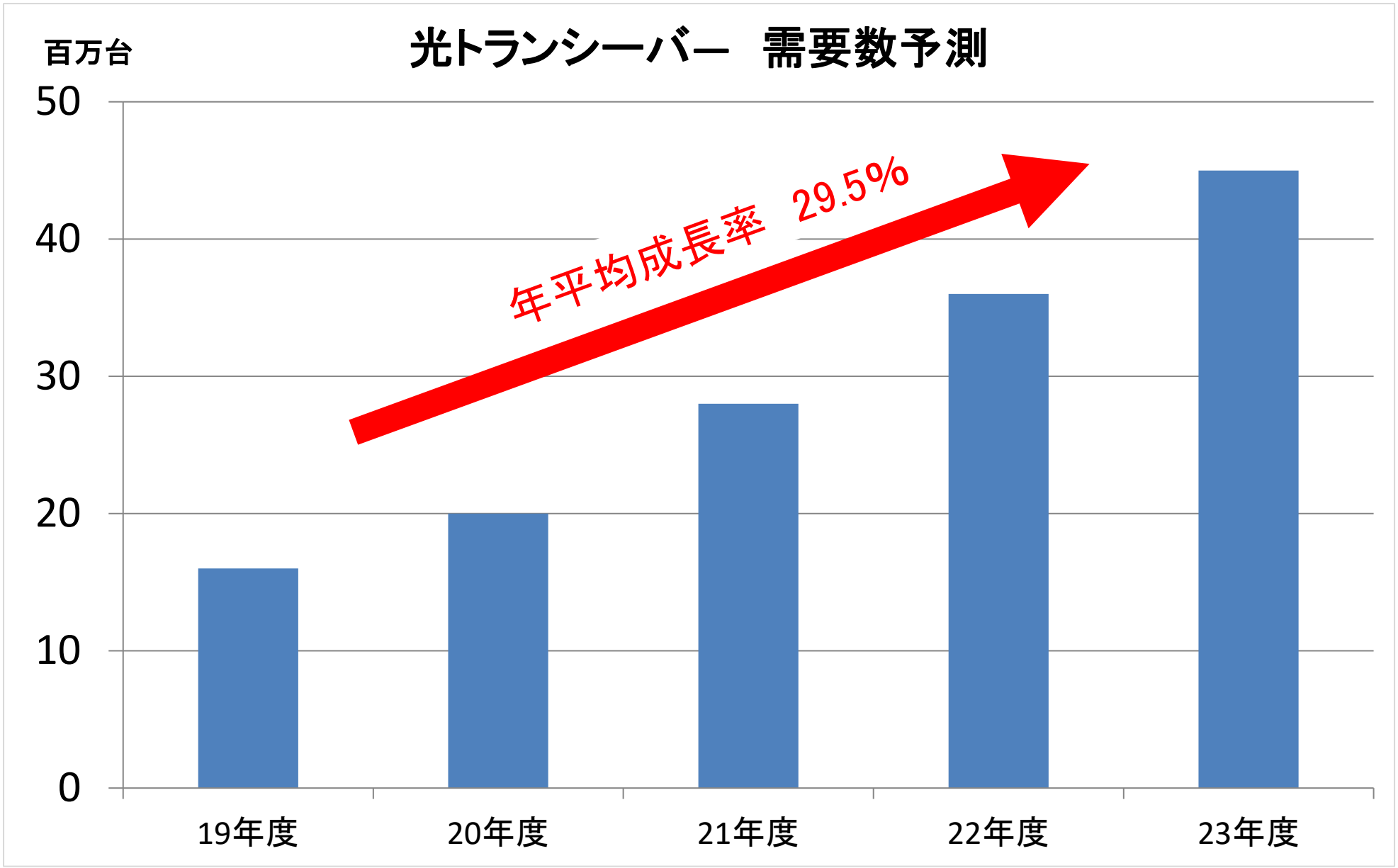


光トランシーバーの需要

中継局・データセンター
- 既存設備の入れ替え需要

基地局
- 基地局の増設需要

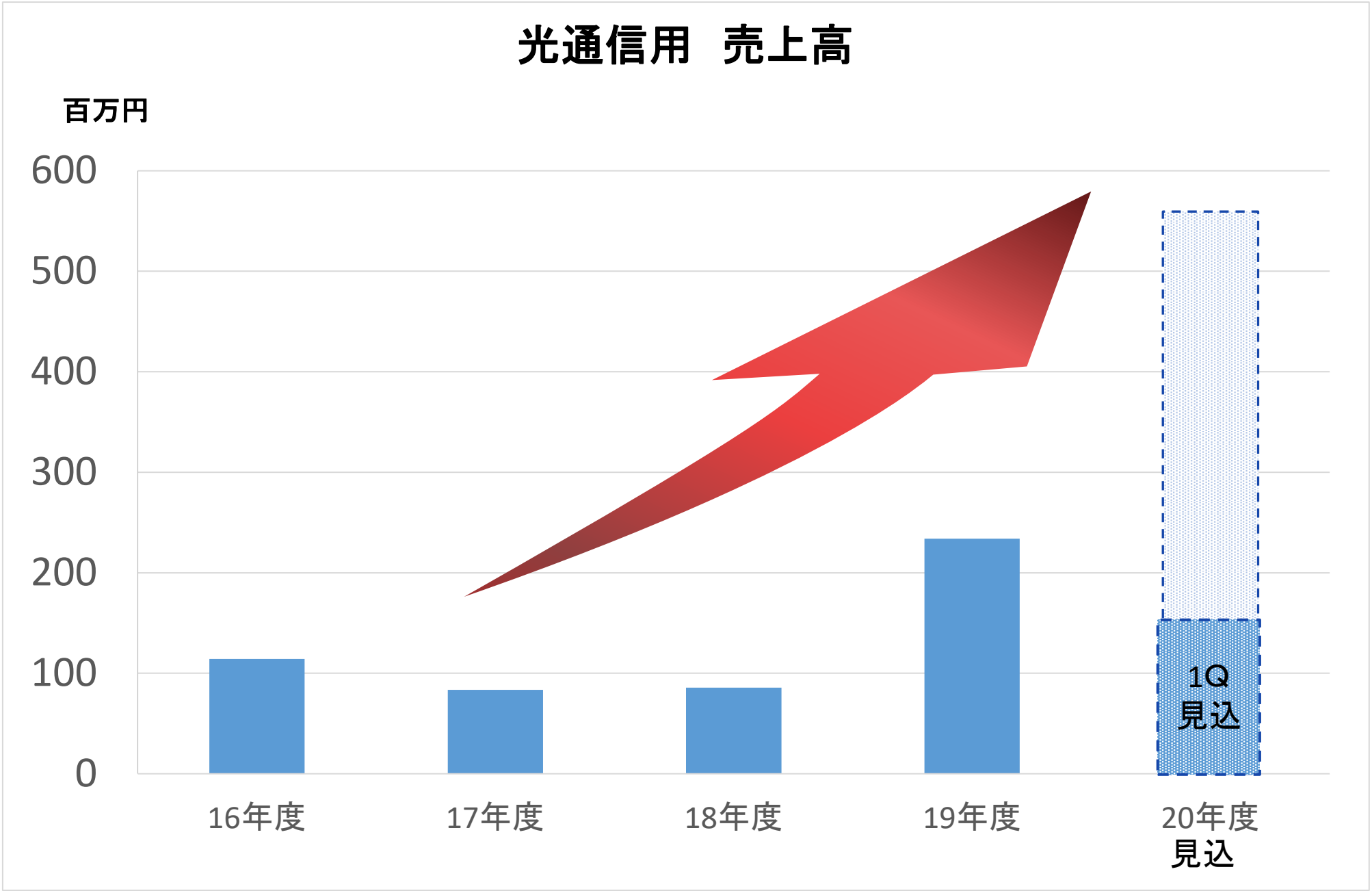
光トランシーバー市場の成長によりサーミスタ需要も増大する



＊出所：顧客聞き取り情報による当社試算

20年度は光通信用売上の大幅増を見込む

OHIZUMI



注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得られた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR　お問い合わせはホームページからお願いします。
http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/